

領収書

2019年03月11日

西崎翔 様

平素は格別のお引き立てを賜り厚くお礼申し上げます。
 下記の金額正に領収いたしました。
 何卒よろしくお願ひ申し上げます。

株式会社プリントパック

〒617-0003

京都府向日市森本町野田3-1

TEL 0120-977-920

FAX 075-935-6890



お支払条件 クレジットカード

納品場所 ご指定場所

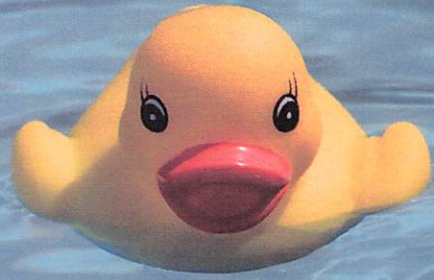
御請求金額 15,180円 (税込)

納品期日 3営業日

ご注文番号	内 容	数量	単 価	金 額
PAC19021747	品名：レポート17号パネル A1 / 片面4色 / コート135 / 10部 / 加工1：トンボ仕上がり断裁（ご注文サイズでお納め） 加工2：	1	15,180	15,180
合 計				15,180

特記事項

- ※クレジットカード決済の場合には、金銭または有価証券の受領事実がありませんので、表題が「領収書」となっていますが、印紙税法基本通達第17号の1文書には該当しません。
- ※5万円を超えていても収入印紙は貼付されません。



目黒川に、世界平均 10 倍のマイクロプラスチック!?

【目黒川調査員 西崎つばさの取材報告】 第 17 号
西崎つばさレポート
2019年3月15日発行 編集部 TEL:03-6201-9950 FAX:03-4321-1800 MAIL:office@n283.com



目黒川に、世界平均10倍のマイクロプラスチック!?

はじめ、花柳徳の人間にとっては無難な季節が訪れています。戦後の緑化政策で豊潤した土壌による花粉症を人々が悩まされるのは当然のことですが、明らかに人間の営みによって生み出された地球環境に深刻なダメージを及ぼしているのがマイクロプラスチックです。

■海洋プラスチック問題に世界が注目
先日ダウミカメやクラゲなどの動物から人間のプラスチックが出てきた話に衝撃されたように、この問題は世界的な関心事となっており、2018年6月のG7サミットでは「海洋プラスチック問題」が取り上げられ、使い捨てプラスチックからの削減が目標とされています。

中でも、誤捨されるミリ以下の大きさになった「マイクロプラスチック」は、回収がほぼ不可能である一方、排出量が増加・蓄積し、現在では世界のあらゆる海に漂着しているとされ、魚や海洋生物、さらには人からも検出されています。健康への影響は未加算ですが、有害物質を吸着しやすい性質であることは疑いなく、看過できません。なお、残念ながら日本と米国は意欲を異なしていません。両国ではほぼ月に「海洋プラスチック条約」が改正され、事業者にはマイクロプラスチックの使用抑制の努力が求められています。

■日本は「ホットスポット」
2015年の調査では、日本近海海域の

マイクロプラスチック濃度は世界の平均の27倍であったと報告されており、いわゆるホットスポットとなっています。そして、これらが近海諸国から漂出されたものばかりかという点、そういった点でもないようです。

国内の河川を調査した研究グループによると、対称となった形式の80%でマイクロプラスチックが検出され、その濃度は、市街地や農地と人間活動の高まりと相関する傾向が認められています。また、別の民間調査では、目黒川(1)の河口付近のマイクロプラスチック濃度が、世界平均の約10倍であったという結果も報告されています。この数値には、目黒川に由来する人間活動も影響を及ぼしていることは容易に想像できます。

■課題を物まかせんか?
この取組においては、最も多いマイクロプラスチックは、人1人から生じたものでした。また、世界で売られる洗剤用品や洗剤用品が劣化して、段々は海洋に流出するというケースも指摘されるなど、この問題は単純にリサイクルを推進するだけでは解決できません。

確かに、リネージュを省いたプラスチックの利便性は、我々の生活にとって欠かせないものであり、一度使えば微プラスチックへ分解するのは困難です。しかしながら、将来的に代わらざるべく地球環境に思いを馳せつつ、今できることを実践することは、現代に生きる者の責任ではないでしょうか。

皆さまのご意見をお寄せ下さい! office@n283.com

西崎つばさプロフィール 15歳、2歳の時、両親が離婚。当時小学1年生、西山山荘で、東京近郊大塚地区へ移住。祖母の家に育ち、小学5年生まで、その後、進学。2015年、目黒川調査員として、環境問題(東京近海諸国の)調査員として活動。

目黒川調査員 西崎つばさの取材報告 【西崎つばさレポート 第17号】 2019年3月15日

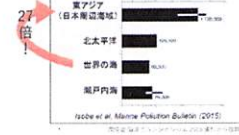
解説 マイクロプラスチック問題

プラスチックは微生物による分解が注目されています。無条件で分解されると、植物の養分源、海に浮遊し続けます。2050年には、海洋のプラスチック量が魚の量を上回るという試算が国際会議で示されています。政府を中心に、プラスチックはSDG6「持続可能な開発目標」に不可欠な資源とされ、使用の削減や代替素材が推進されていますが、日本の取り組みは早急とは言えない状況です。



判明 身近な海や川にも存在

海峽別11箇所に存在するマイクロプラスチックの濃度



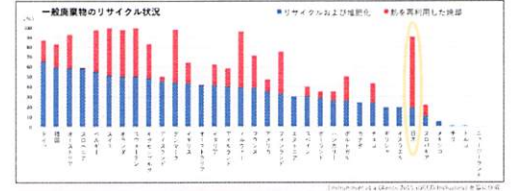
日本近海が近いマイクロプラスチック濃度は、世界の平均の10倍以上の濃度もあると推測され、子どもが海水浴を控えるなど、健康被害も懸念されています。

河川/海名	調査地点	濃度 (個/m³)
目黒川	河口付近	1.20
多摩川	丸子橋	0.77
瀬田川	汐入公園付近	1.65
多摩川河口付近		0.63
奥平川	河口付近	0.37

読解 日本はリサイクル先進国?

日本はリサイクルが盛んであると思いがちですが、2015年時点のOECD加盟24カ国中27% (19%)と低い水準にとどまっています。これは、日本の廃棄物が積極的に再リサイクル (最も再利用した)

国産) 品、世界ではリサイクルと見なされていないこと由来です。SDG6に導かれる循環型社会を目指すためには、こうした現状を改善し、廃棄物を減らす必要がありそうです。



ブログ・Twitter・Facebookも、ぜひご覧ください! 西崎つばさ